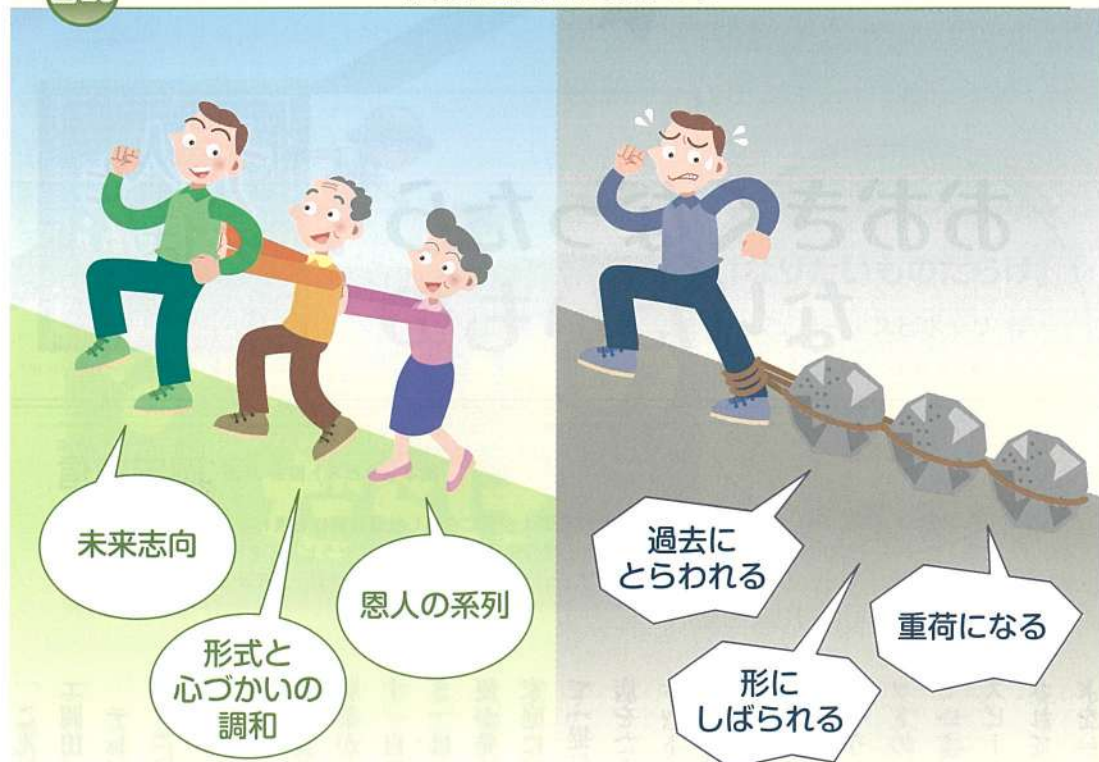




モラロジーの「伝統」の観念はこれまでの伝統の意味をさらに深め、未来に向かって、私たちの道德実行を後押しする働きをします。

「慈悲」の精神を見いだしました。「慈悲」は、聖賢たちが同様に提唱してきたものです。この慈悲の精神を継承して発展させてきた人々の精神と行動によって、私たちは育まれてきたと考えたのです。モラロジーでは、人類が共通に受けている大恩をもたらしした恩人の系列を「伝統」と呼びます。モラロジーを学ぶということは、「伝統」の心を学び、理解し、実践していく過程でもあります。私たちは「伝統」の恩恵に気づいていくなかで、自分の存在の意味をつなぐのなかに見いだすことができます。人生のどの段階にあっても、他者を育てようとする慈悲の心を発揮することで、伝統の系列の一員になれるという自覚も深まっていきます。モラロジーの「伝統」の観念は、形と心づかいの調和を目指し、その中核に慈悲の心を置くものです。それはまた人類共通の恩人とその系列の人々の存在を私たちに気づかせてくれます。「伝統」は私たちの存在の根源を明らかにし、私たちの道德実行を未来に向かって後押ししてくれているのです。

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第八章「伝統報恩」から、一の「大きな恩恵への気づき」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部



伝統の意味を深める

—— 恩人の系列に目を向ける

きのしたじょうこう
研究センター教育研究室 木下城康

一般に伝統とは、代を重ねて受け継がれていることをいいます。文化や芸術、学問や思想だけでなく、私たちの日常生活もこうした過去からの積み重ねに支えられて成り立っています。

その一方で、伝統には「古臭い、保守的」という印象もついて回ることもあります。例えば、日常の生活でも時には過去ばかりに目が向いて、現在の状況や将来が見えなくなる場合があります。また、伝統的な形式を重視するあまりに周囲に気が回らないときもあるでしょう。これではどんなによい伝統でも未来に継承していくことが難しくなります。では、どのように考えていけばよいのでしょうか。

モラロジーの創建者・廣池千九郎は、伝統の観念に着目してその意味を深めようとした。それは、伝統の「形式」と「精神」の調和を、聖賢の教えに基づいて再構成する試みでもありました。

モラロジーでは、「形式」を大切にしながらも、それと同じくらいに「心づかい」を重視し、その調和を目指しています。廣池は「伝統」の観念の中核に万物を育て